

平成 23 年度 シラバス	学年・期間・区分	1年次・前期・選択	
	対象学科・専攻	機械・電子システム工学専攻	
機械・電子システム工学特別演習 II (Advanced Exercises II in AMS)	担当教員	岸田一也(Kishida, kazuya) 福添孝明(Fukuzoe, Takaaki)	
	教員室	専攻科棟4階 (42-9084) 電子制御工学科棟3階(42-8086)	
	E-Mail	kishida@kagoshima-ct.ac.jp fukuzoe@kagoshima-ct.ac.jp	
教育形態 / 単位数	演習 / 1単位		
週あたりの学習時間と回数	〔授業 (100分) + 自学自習 (50分)〕 × 15回		
〔本科目の目標〕 本科目では、これまで修得してきた C 言語を用いたプログラムの知識をもとに課題を与え、その課題を解決するプログラムを作成できることを目標とする。ただし、本科目の序段階では C 言語の基礎的プログラミング技術の復習を行う。			
〔本科目の位置付け〕 これまで学習してきた内容の再確認をしたうえで、課題を解決するために自ら考え問題解決を行う演習として位置付ける。			
〔学習上の留意点〕 C 言語によるプログラムの基本的知識を再確認しておくこと。また、ウィンドウズ XP 以上の OS の動くラップトップパソコンが必要。また、講義の内容をよく理解するために、毎回、演習問題等の課題を含む復習として 200 分以上の自学自習が必要である。			
〔授業の内容〕			
授 業 項 目	時限数	授業項目に対する達成目標	予習の内容
1. C 言語プログラムの基礎技術	12	変数と変数名、変数の型、データの表示、標準入出力、配列が理解できる。 制御文の流れと式が理解できる。 ファイルへの入出力、ポインタが理解できる。 関数が理解できる。 構造体・共有体を理解し、それらを使ったプログラムが作成できる。	事前に資料を配付するので、当該時間の内容について熟読して理解しておく
2. アルゴリズム —ソート—	10	単純選択ソート、シェーカーソート、バブルソート等のソートプログラムが作成できる。	事前に資料を配付するので、当該時間の内容について熟読して理解しておく
3. 課題作成	6	関数を用いたプログラム作成ができる。 構造体を用いたプログラム作成ができる。 ポインタ変数を用いたプログラム作成ができる。	与えられた課題を作成するのに必要なプログラミングの知識を参考書等を見て、再度確認しておく
---期末テスト (または課題作成) ---	2	授業項目 1～3 の達成度を確認する試験または課題作成を行う。	
試験の解説		試験において間違った部分を理解出来る。	

